



## ネオナイトの工場訪れ 日本の汚濁水処理学ぶ

中南米7カ国の技術者が研修

国際協力機構（JICA）が主催する排水処理技術の研修で来日したアルゼンチン、コスタリカ、エクアドルなど中南米7カ国の技術者9人が10月27日、汚濁水処理などを手掛ける（株）ネオナイト（松江市富士見町）の第1工場（同市八幡町）を訪れ、同社の取り組みや技術を学んだ。

一行は各国の政府機関  
— や自治体、公共団体  
などで排水を担当する職



排水の水質試験の様子を眺める中南米の技術者。松江市八幡町、ネオナイト第1工場

員。中南米では都市部での人口増加に処理設備の整備や技術が追いつかず、河川や地下水の汚染が問題化しているという。

研修ではネオナイトの担当者が、建設現場や工事現場で排水の量や濃度に合わせて設計したプラントを設け、処理剤を用いて排水を水と沈殿物に分離しながら処理する手順を、写真を示しながら説明。処理剤を使った水質の測定も実際に行なった。同社の塔村正樹専務は「研修を縁に、中南米の環境保全に協力できる点があれば当社としても努力していきたい」と話した。

コスタリカの政府機関「上下水道庁」で排水処理システムの運転や保守点検

を担当するファン・ディエゴ・キロス・ゴンザレスさん（29）は「大変参考になった。日本企業との技術交流、意見交換が今後（母国にとって）重要になると感じた」と述べた。

研修期間は9月2日～10

月31日で、一行はJICA中国国際センター（広島県東広島市）を拠点に全国の大学、農業集落排水設備、し尿・汚泥の処理施設などを見学。山陰両県での研修場所はネオナイトが唯一だった。

（錦織拓郎）